

3. サテライト導入の経緯

平成11年ごろから、本体にてユニットケアを限定的に行っている。
平成15年に本体施設の個室化、ショートを増床を池田市、大垣市に提案し、サテライト特区の申請を行う。
敷地は、本体がある池田町との位置関係を考慮し、大垣市内でも北部を選んだ。周辺は自然環境が豊かであり、大学もあることからボランティア活動など運営面での理解、連携が可能であると考えた。

4. サテライトへの転居が入居者・家族・地域住民に与える影響

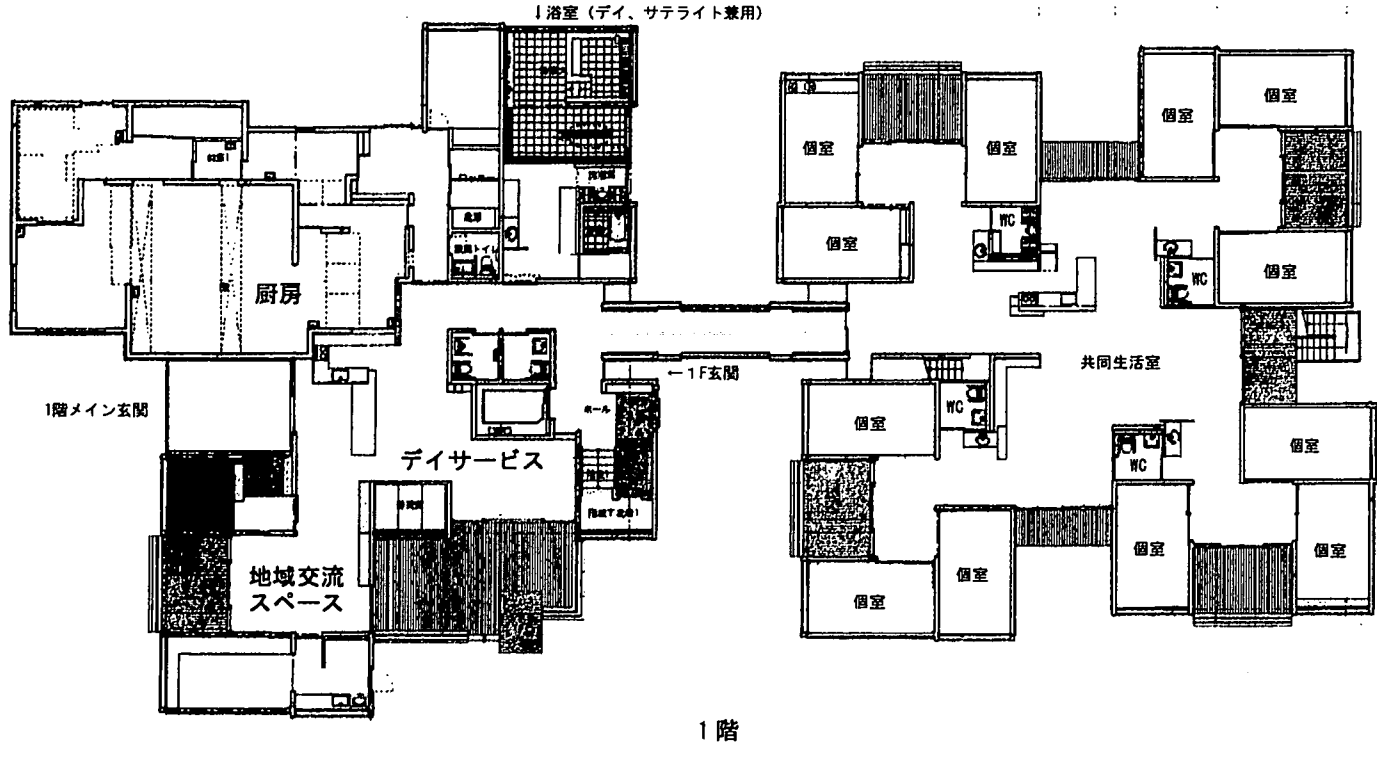
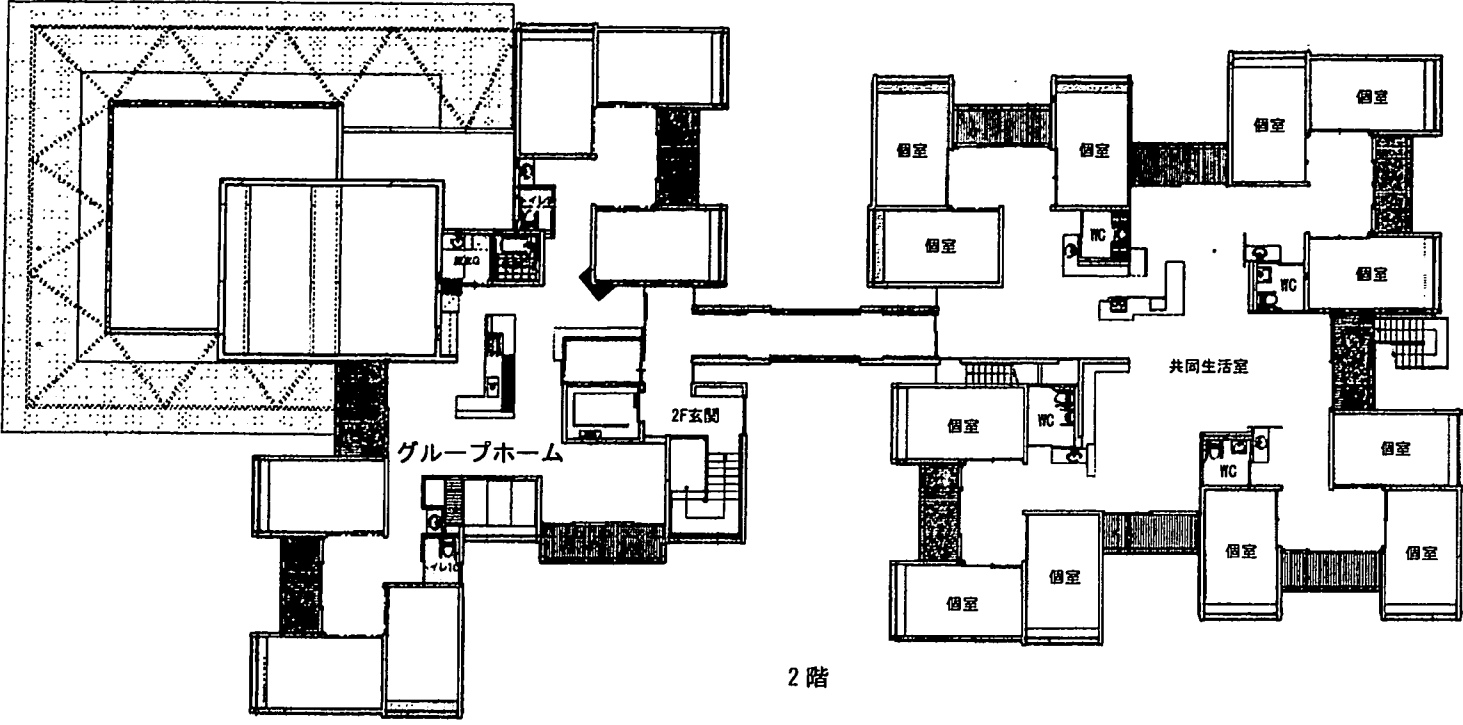
1	本体から移動した利用者の選定理由
本体からの移動人数 13人(8人は新規入所)	
本体の施設利用者のうち、大垣市の出身者のみを対象とした。30人前後の大垣市出身の利用者、家族に対してサテライトの紹介を行い、希望の有無を確認したうえで13名が本体から移動した。移動を希望しなかった人の主な理由は「地元に戻ったことを本人が理解ができない」「本体施設の方が家族の自宅と近く、駅からも近い」「ホテルコストを支払うことができない」などであった。	
2	サテライトへ移ることによる利用者の効果
利用者間で地元の話題で盛り上がるができる。地元の祭りやイベントへの参加が行いやすくなった。小規模のためサテライトの併設施設との交流も増加し、GHやデイを使用している友人との再会もみられる。本体施設に比べて家族の面会頻度も増えている。また、見慣れた景色であることや小規模であることが利用者に安心感をたらしめている。	
3	サテライトへの移行に伴う課題
併設の地域交流スペースでは障害者の雇用、子育て支援など多世代共生を目指して運営を行っており、更なる地域ケアの推進が課題である。	

5. 職員の選定と育成

1	本体からサテライトへ異動した職員の選定理由
新規の立ち上げ事業であるため職員の選定は①ベテラン、中堅を中心に前向きで責任感のある職員を選定、②サテライトへ移動する利用者を担当していたユニットから職員を選定、③非常勤、一般職員に対しては、良質なサービスの提供能力、業務遂行能力、3交代勤務の可否を合わせて選定を行った。	
2	サテライトを開始するまでの職員教育
施設内研修としてユニットケア実施フロアやGHにおいて個別ケアを学ぶ機会を設けている。	

6. GH、認知症デイとの併設における利点

1	職員配置上の利点
併設事業との兼務が可能になり、看護職など人員配置の効率化が計れる。 夜間はサテライトとGHに各1名の夜勤者がおり、連携が取りやすいとともに職員の安心感が得られる。	
2	設備の共有化における利点
厨房、事務所、職員休憩所、浴室を共有化。厨房はサテライト+併設施設に加えて、地域住民や地域の施設に対して配食を行うセントラルキッチン機能を担っている。浴室は、デイ、サテライト特養で共有している。	
3	在宅機能と入居機能を合わせる利点
認知症デイの人がショートステイ(特養の空床を利用)を利用する際には、なじみの空間、なじみの人的環境により、安心感が得られ混乱が少ない。	



図表 1-47 サテライトの平面図 1/300

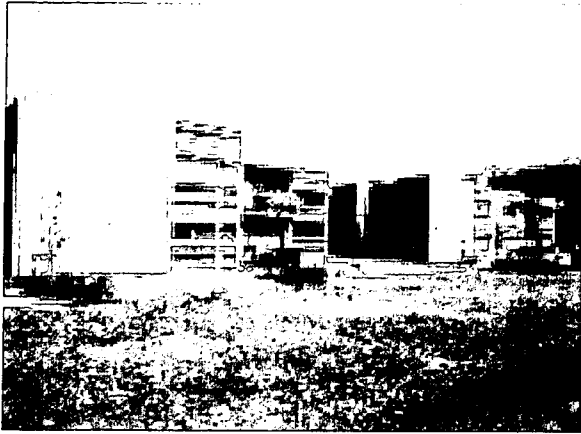


写真 サテライトの外観

手前側は1階が認知症デイ、2階がGHである。奥側の1階、2階がサテライトになる。



写真 サテライトの玄関

認知症デイの棟とサテライトの棟間にサテライト専用の玄関がある。玄関から2階へも直通で行くことができる。

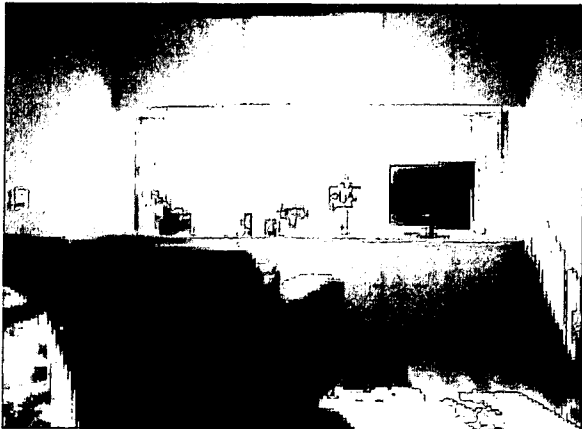


写真 サテライトの居室

入居者が座ったときに視線の高さの視界が開けるように工夫されている。

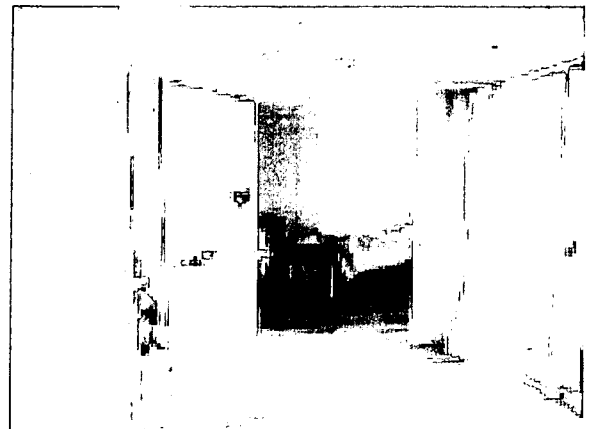


写真 サテライトの居室付近

居室から出ると2から3部屋で囲まれた共用空間があり、居室のドアを全て開放すると少人数で集まれるようになっている。



写真 サテライトのキッチン

サテライトに入るとキッチン兼スタッフコーナーが見える。キッチンは共同生活室に面して設置されている。



写真 サテライトの共同生活室

共同生活室はいくつもの小規模なスペースに分かれるように作られている。開口部も多いことから日当たりは良好である。

1. 本体施設の概要について

1	名称	サンビレッジ新生苑
2	所在地	岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
3	開設年	1976年4月15日
4	建物階数	地上：2階（一部3階）
5	併設サービス	ショートステイ、デイサービス、訪問看護、配食サービス、在宅介護支援センター
6	敷地面積	7414.45㎡
7	建築面積・延床面積	建築面積：2096.14㎡、延床面積4050.36㎡
8	都市計画区域区分	都市計画区域外、建蔽率70%、容積率400%
9	建物の構造	RC造
10	平均要介護度	4.08
11	ホテルコスト	従来型個室：39,600円/月（1,320円/日）、多床室：9,600円/月（320円/日）

2. 改修の全体像

本体入所部門からサテライトへ21名が転出するとともに、ショートニーズの増加から本体にショートを13名分を増床した。
 その結果、本体の定員が入所130名、ショート6名（計136名）から入所109名、ショート19名（計128名）となった。上記の変更を前提とし、本体に隣接して10名×2ユニット（計20名）を増築しており、既存の本体部分の定員は136名から108名となり、実質28名の定員減となる。
 本体については、その範囲での個室化を計画しており、本体改修、増築工事が完了するのは平成18年3月である。

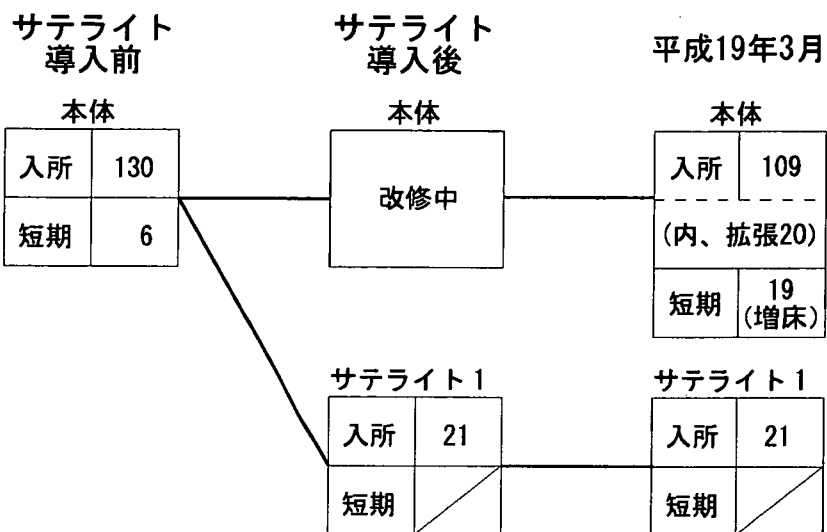
3. 改修の状況

年	内容
平成11年～ 平成14年～	認知症専用フロアで少人数の食事作りを開始しユニットケアを試行
平成14年～ 平成17年	認知症専用フロアの一部改修を実施
平成17年 平成18年	構造改革特区の認定を受け、サテライト施設の整備を開始 本体施設を改修および本体と併設して20床の増築工事を開始

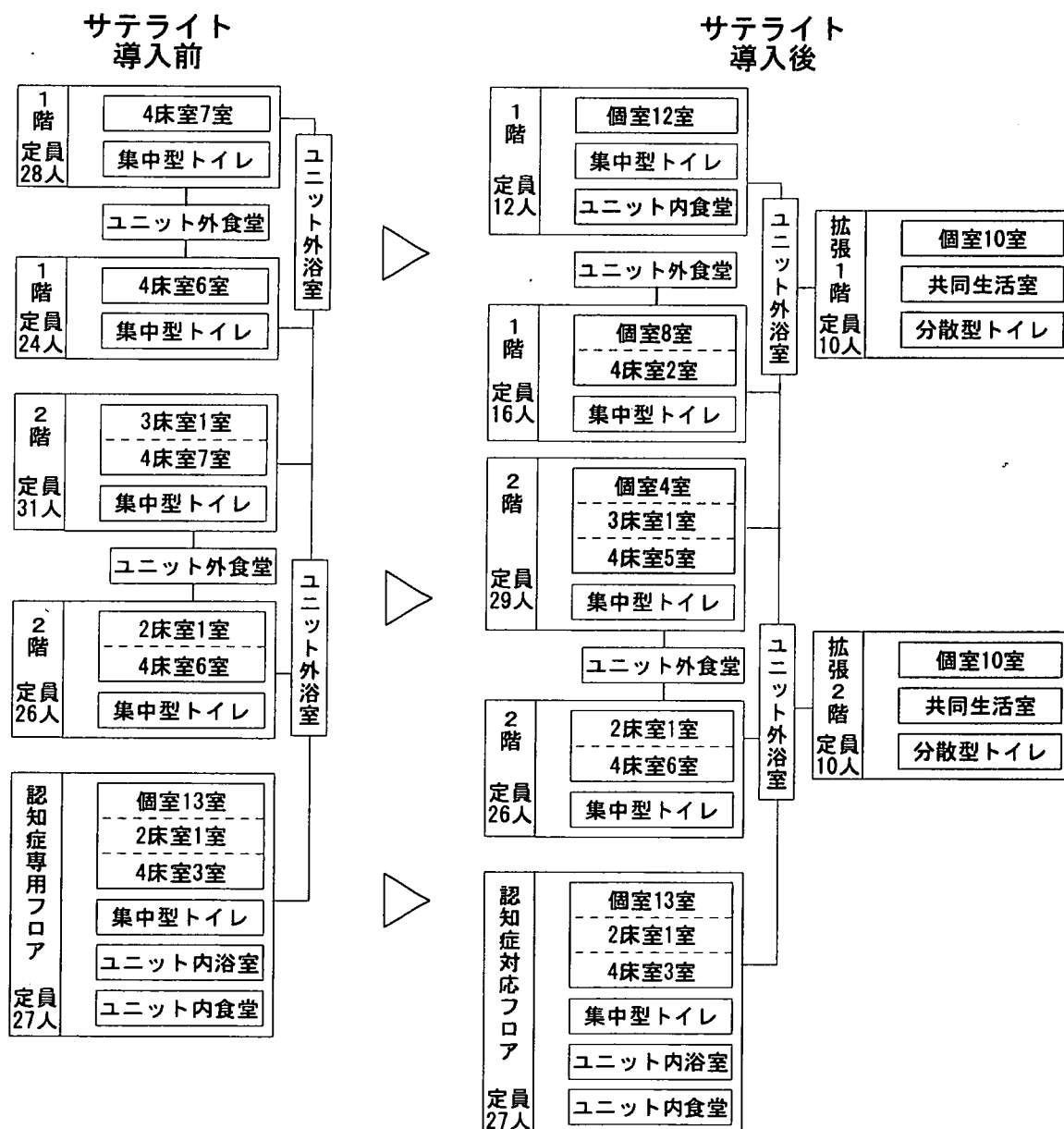
4. ソフト・ハードの概要

		改修前					改修後					
ソフト	定員	入所：130名 短期入所：6名 別途、同一敷地に自由契約型特養30名					入所：109名 短期入所：19名 別途、同一敷地に自由契約型特養30名					
	ユニット数	5ユニット					7ユニット					
	ユニット定員	1階：28名が1ユニット、24名が1ユニット 2階：31名が1ユニット、26名が1ユニット 認知症専用ユニット：27名、					1階：12名が1ユニット、16名が1ユニット 2階：29名が1ユニット、26名が1ユニット 認知症専用ユニット：27名、 拡張：20名（10名×2ユニット）					
ハード	職員配置 入居者：看護+介護職員	2.2:1					—					
	居室	部屋数	個室1	2床室	3床室	4床室	その他	個室1	2床室	3床室	4床室	その他
		改修内容	13	2	1	29		57	2	1	16	
	食堂	ユニット毎の有無	個室は認知症専用フロアに集中して整備されている。4床室には部屋に1つの洗面と各人に備え付けの家具が用意されている。					4床室13室を改修予定。4床室12室は個室24室となり、4床室1部屋は食堂に改修される。個室化に伴う洗面台、トイレの設置はない				
		1階入居者は大規模な食堂を利用。2階入居者はホールを利用。認知症専用フロアは食堂あり。					4床室の1部屋を食堂に改修					

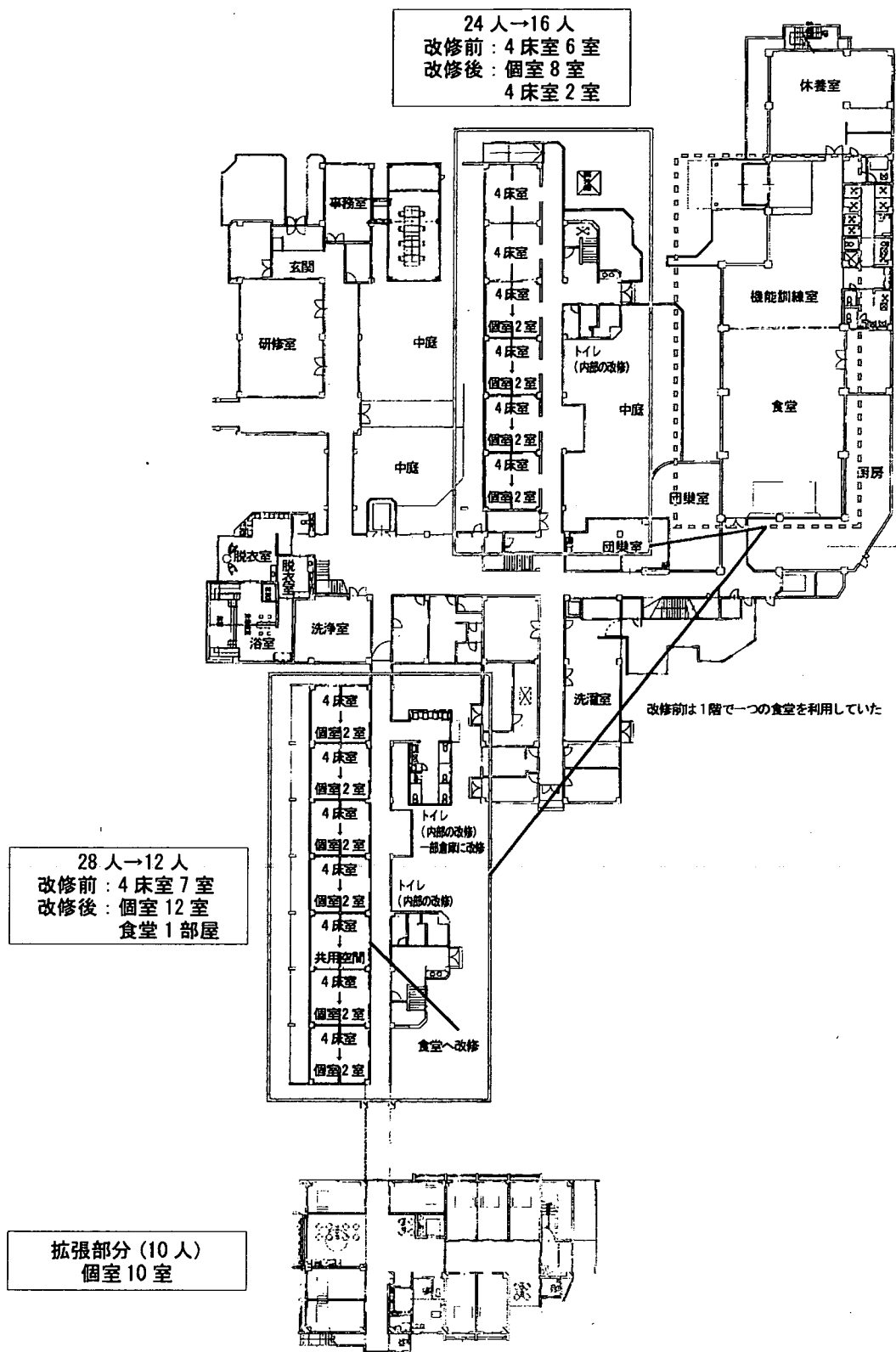
図表 1-48 本体施設の概要



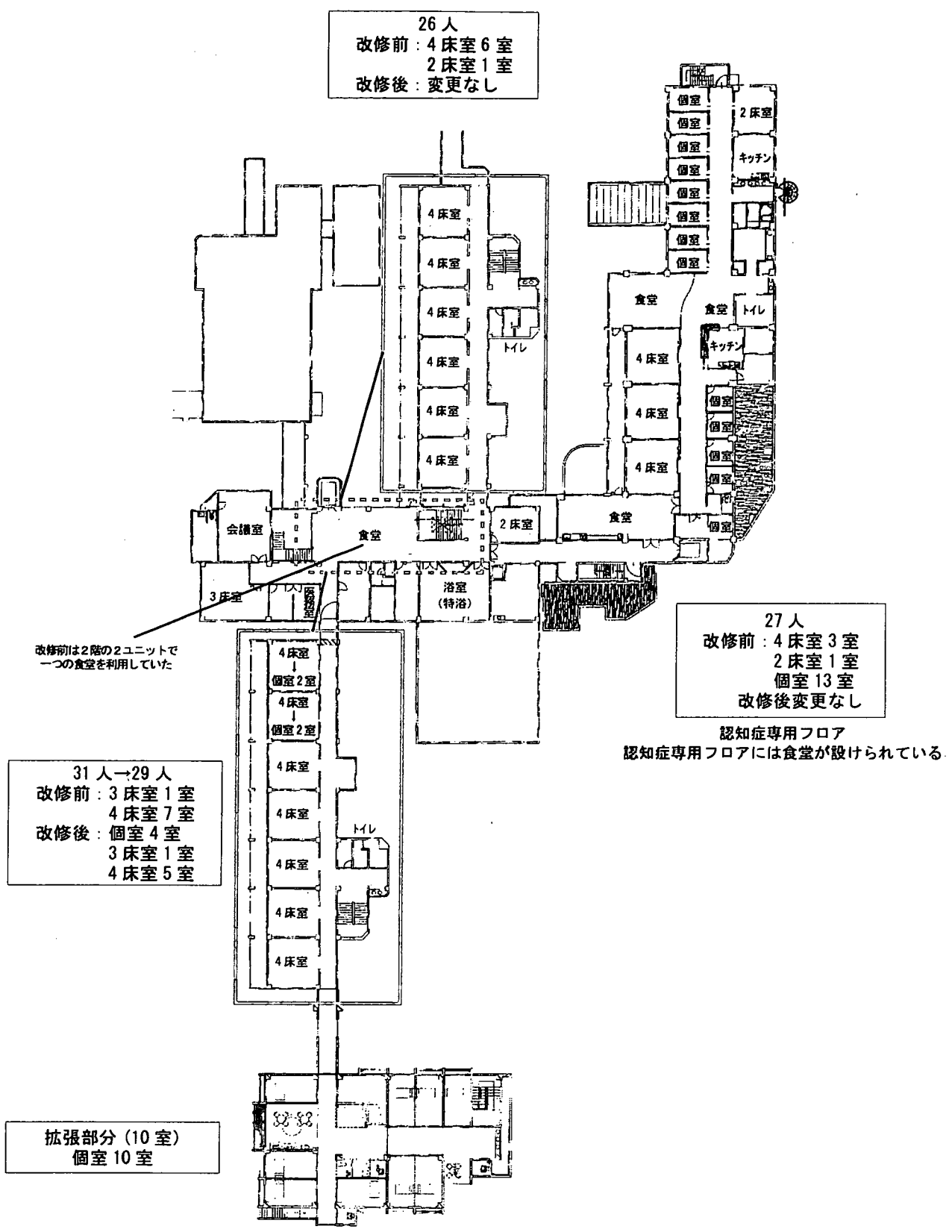
図表 1-49 サテライト展開の概要



図表 1-50 本体改修の概要



図表 1-51 本体施設の平面図(1階) 1/600



図表 1-52 本体施設の平面図(2階) 1/600

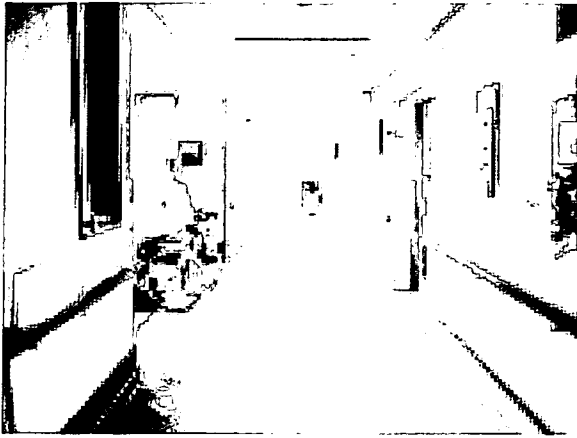


写真 廊下

改修ゾーンの廊下。廊下部分については大幅な改修は実施されないが、以前にアルコーブを増築し入居者のスペースを作っている。



写真 改修前の居室

改修前の4床室。空調の問題により完全な個室ではなく個室的多床室2部屋となる。

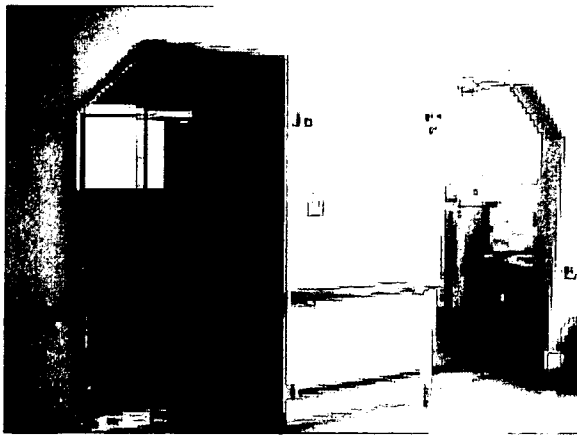


写真 改修前のトイレ

便器や手すりの位置が悪く介助が行いにくいのでトイレも改修される予定。



写真 食堂

本体入居者およびデイサービスの人の食堂である。改修後も本体の食堂として利用する予定である。



写真 食堂2

認知症専門棟の食堂。4床室を食堂に改修。キッチンも設置されている。



写真 食堂3

認知症専門棟の食堂。廊下及びテラス部分を食堂に改修。

調査事例6 社会福祉法人 青山里会	本体施設名	小山田特別養護老人ホーム
	サテライト施設名	小山田特別養護老人ホーム サテライト小杉

法人の概要

三重県四日市市にある社会福祉法人青山里会は、同市にある医療法人主体会の医師によって30年以上前に開設された。そして、1974年には市街地からは少し離れた小山田地区に本報告書の調査対象である小山田特別養護老人ホームが開設される。小山田特別養護老人ホームは、四日市市で初めての特別養護老人ホームであり、当時としては珍しい高層（4階建て）であった。その後、同地区に医療法人主体会が運営するリハビリテーションセンターや青山里会が運営する老人保健施設、軽費老人ホーム、ケアハウスなどが建設され、小山田地区は大規模な福祉エリアとなっている。

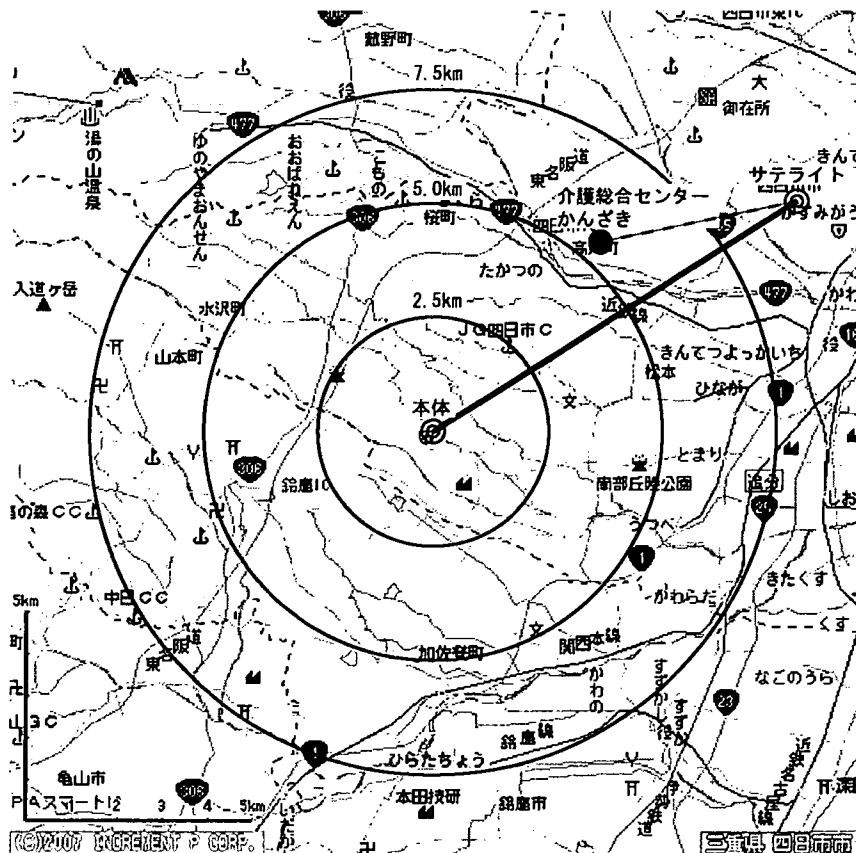
また、青山里会は、全国に先駆けて老人保健施設、ケアハウスのモデル事業を実施し、積極的に新しい試みに取り組んでいる。

近年は、小山田地区以外の地区にも複数の拠点を作っており、2000年には四日市市のかんざき地区に介護総合センターかんざき（特別養護老人ホーム、ショートステイ、認知症デイ）が開設された。この介護総合センターかんざきとサテライトの距離は車で10分程度であり、本体である小山田特別養護老人ホームよりも近いため、配食および職員の派遣などの連携をとりあっている。

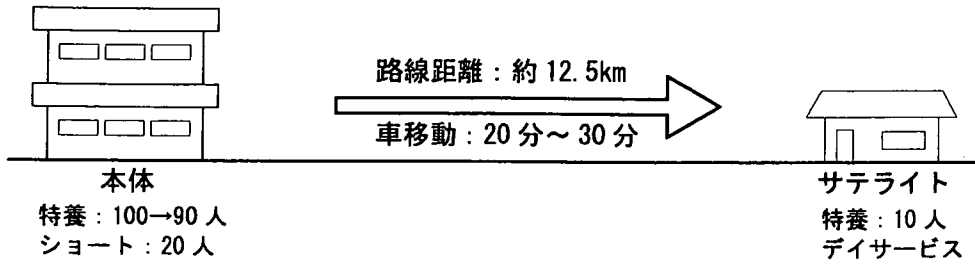
本体およびサテライトの立地と位置関係

本体は市街地からは離れた場所にあり、同一法人および系列医療法人が運営する施設が数多くある福祉エリアの中にある。そして、施設周辺は主に農業を主体とするエリアになっている。

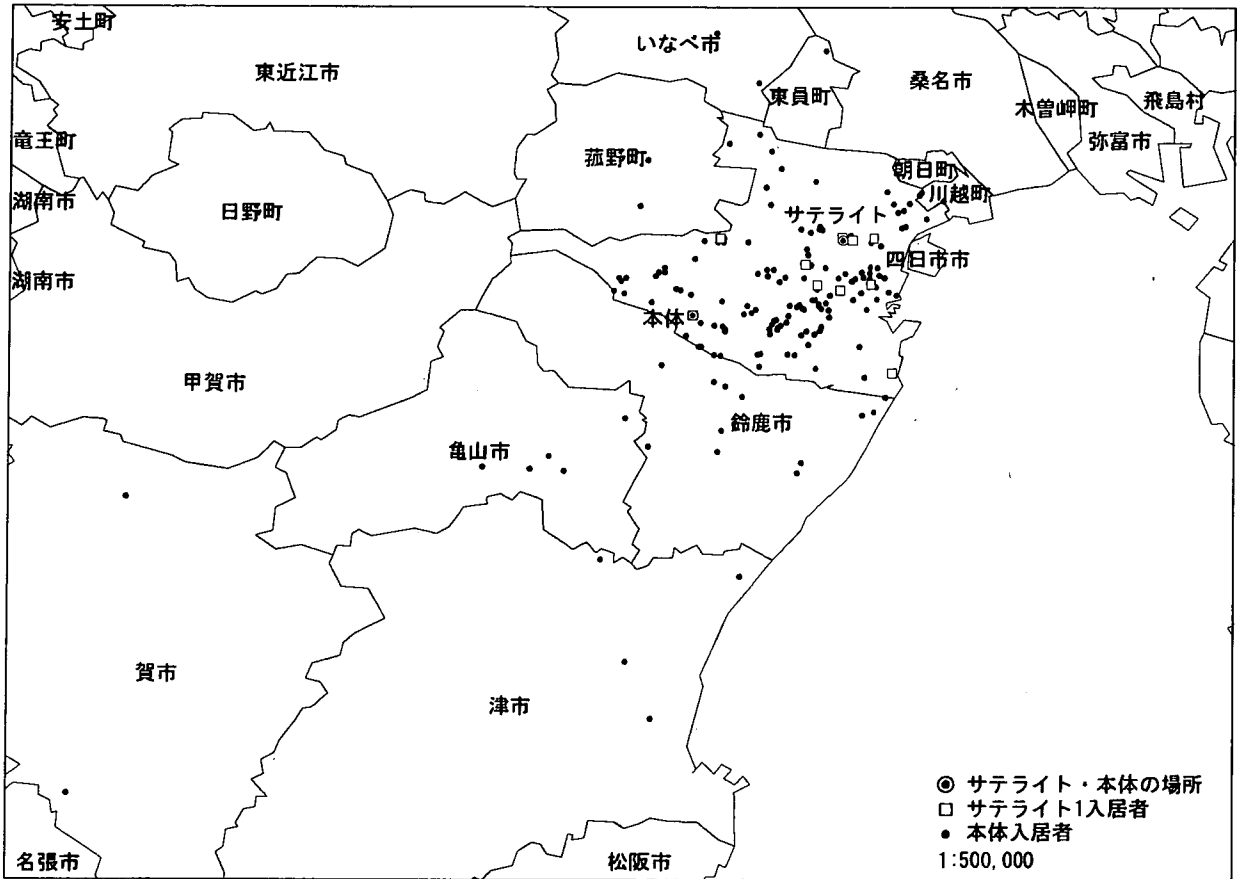
一方、サテライトは市街地の中にあり、周辺は住宅地に囲まれている。従前の用途は、社員寮であり交通機関および生活面での利便性はよい。本体とサテライトの距離は、9.5kmあり車で20分から30分は必要とする。



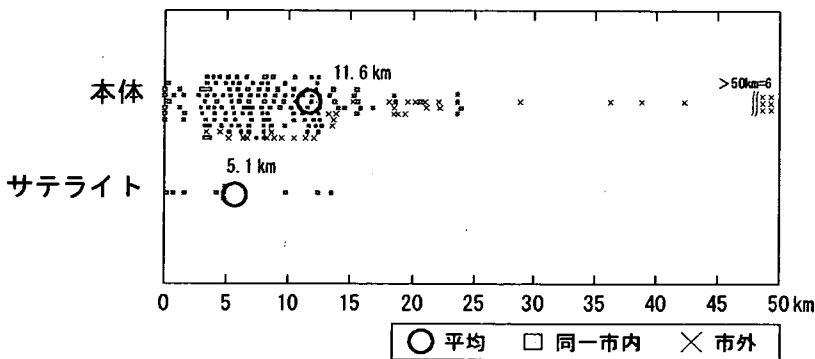
図表 1-53 本体およびサテライトの位置とその関係



図表 1-54 本体およびサテライトの距離



図表 1-55 入居者の前居住地の分布



図表 1-56 本体およびサテライトと前居住地の距離

	三重県	四日市市
面積 (km ²)	5776.68	205.16
人口 (人)	1866963	303845
人口密度 (人/km ²)	323.2	1481
高齢者人口 (人)	400647	56609
高齢化率 (%)	21.5	18.6
独居高齢者数 (人)	53216	8133

1. サテライト施設の概要について

1	名称	小山田特別養護老人ホーム サテライト小杉	
2	開設年	2006年1月1日	
3	所在地	四日市市小杉町平地1473-15	
4	本体との距離	路線距離:約12.5km 移動時間:車20分~30分	
5	建物階数	地上:2階	
6	敷地面積	1983㎡	
7	建築面積・延床面積	建築面積:349㎡、延床面積:663㎡	
8	都市計画区域区分	市街化区域、第1種住居地域、建蔽率60%、容積率200%	
9	土地・建物の所有形態	土地:法人の自己所有、建物:法人の自己所有	
10	建物の構造	RC造	
11	併設サービス	デイサービス	
12	建設費	建設費用	改修費用:約4,500万円(社員寮を改修して利用)
		うち交付金額	なし
	リース代	—	
	ホテルコスト	59,100円/月(1,970円/日)	
	食費	41,400円/月(1,380円/日)	
13	定員数	入所部門:10人	
14	平均要介護度		
15	ユニット数	1ユニット	
16	ユニット定員	10人	
17	職員配置	入居者:看護+介護職員 2:1	
18	介護職員	常勤3人 非常勤1人	
19	日中の介護職員の勤務シフト	1ユニットで固定	
		日勤:8時30分~17時15分 宿直:8時15分~翌11時15分 遅出:10時~19時 夜勤:16時30分~9時30分	
20	1ユニットの職員数(標準)	朝食時:3人、昼食時2人、夕食時:2人	
21	夜勤の勤務体制	夜勤1名、宿直1名	
22	夜勤の勤務時間	17時間	

2. サテライトと本体との協力関係

1	全般	施設長	本体と兼務
		生活相談員	サテライト専属(デイサービスと兼務)
		事務員	本体と兼務
2	医療	医師	本体と兼務(嘱託医)
		看護	サテライト専属 常勤1名、非常勤2名
3	食事	栄養士	本体と兼務(本体およびサテライト1階デイサービスと兼務)
		調理員	サテライト専属(1階デイサービスと兼務)
		調理方法	本体の厨房で一次調理を行い、サテライトで二次調理を行う 本体施設(系列施設)で1次調理、サテライト併設の厨房で2次調理を行い、サテライトのキッチンでは盛り付けを行う。
4	協力上の特徴	1.看護:日中は毎日常駐している。シフトは常勤1名と非常勤2名で組む。夜間も同一法人の他事業所から看護職員1名が派遣され常駐している。 2.医療:本体とサテライトの距離が離れているため、医療については近隣の診療所の協力を仰いでいる。 3.調理:本体で一次調理、サテライト1階のデイサービスの厨房で二次調理 4.事務:本体で全て行う	

図表 1-57 サテライト施設の概要

3. サテライト導入の経緯

従来より市街地から離れた場所に大規模な福祉エリアとして整備されていたものを、地域に戻す計画を考えており、サテライトを実施した。さらに、本体施設の老朽化も著しく、改修も考えサテライトを導入した。

4. サテライトへの転居が入居者・家族・地域住民に与える影響

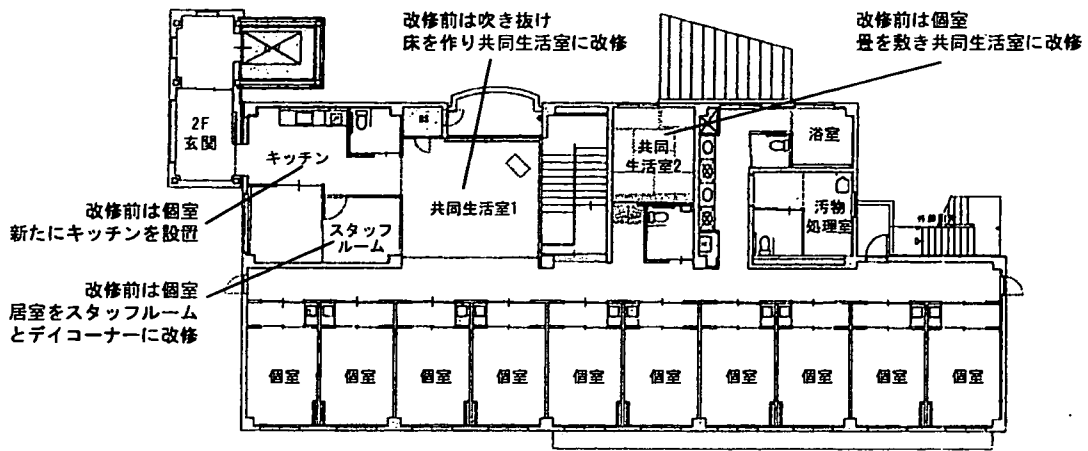
1	本体から移動した利用者の選定理由
本体からの移動人数 10人	
既存建物(社員寮)を活用しているため、廊下幅が狭く車いすが通りにくい。そのため、比較的軽度の認知症の人を中心に選定した。さらに、本体とは20分から30分離れており、頻繁な往診がない人を選定している。また、本体には広域から利用者が来ており、サテライト周辺の入居者に転居を希望する人はいなかったが、サテライト開始後には、新たに近隣住民2名の入居があった。	
2	サテライトへ移ることによる利用者の効果
建物内の居住環境が変化したことにより、メリハリのある生活が可能になっている。家族の施設へのアクセスがよくなることにより訪問頻度が増えた。通学路になっているので孫が頻繁に訪問してくれるなど、家族との関係性が切れなくなった。また、家族の訪問頻度が増えることにより、施設と家族の情報交換も密になっている。	
3	サテライトへの移行に伴う課題
設置時に、地域住民の反対があり、認知症に対する理解を得るのに時間がかかったが、現在は良好な関係を築いている。	

5. 職員の選定と育成

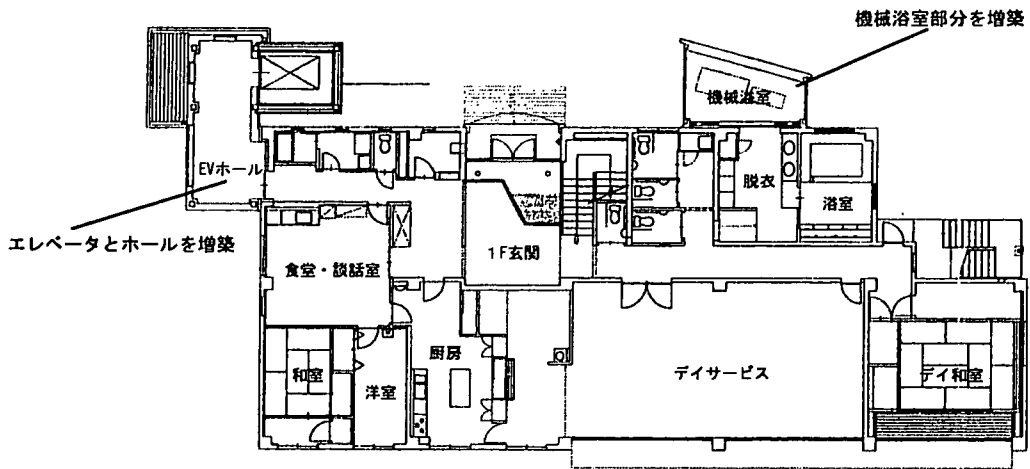
1	本体からサテライトへ異動した職員の選定理由
認知症の介護経験がある人を選定	
2	サテライトを開始するまでの職員教育
サテライト型特養の意義や目指すべき介護について法人内で研修を行った。リーダー(主任)には、認知症介護実践研修を受講させた。	

6. デイサービスとの併設による利点・課題

1	職員配置上の利点・課題
当初は小規模多機能との併設を考え、夜勤、看護との効率的な連携を計画していたが、四日市市内に小規模多機能の計画予定がなく、デイサービスとの併設に移行した。そのため、効率的な配置が困難となり、夜勤、看護のサポートは法人全体で行っている。	
2	建物転用ならびに設備の共有化における利点・課題
従前の用途は社員寮であり、サテライトへの転用に際しては、EV、トイレ、機械浴室の増築・増設を行った。室内は、吹き抜け部分を共同生活室にし、居室2部屋をキッチンとスタッフルームにした。	
3	在宅機能と入居機能を合わせる利点
1階の通所施設からサテライトへ入居した利用者の場合、小規模のためサテライト職員がデイの利用者も知っており、スムーズに移行することができた。	



2階



1階

図表 1-58 サテライトの平面図 1/300



写真 サテライトの外観

改修前の玄関は階段を上にある。改修後はデイサービスの玄関として利用。



写真 サテライトの玄関

斜面地にあり玄関までが階段のためEVを増築。玄関を新たに設け駐車場から2階のサテライトまで直接入ることができる。



写真 サテライトの玄関

駐車場から直接2階のサテライトへ入ることができる。EVとEVホールは新たに増築。



写真 廊下部分

10室の居室が片廊下にそって並んでいる。廊下幅は社員寮時代と同じ(1200cm)となっている。



写真 共同生活室2

改修前は居室として使用されていたが、共同生活室に改修している。畳が敷かれ、床の間も設けられている。



写真 キッチン

居室をサテライトのキッチンに改修。キッチン設備は新たに増設した。サテライトのキッチンでは、盛り付けを行う。



写真 共同生活室1

社員寮時代は吹き抜けであった部分に床を張り共同生活室に改修。



写真 1階厨房

本体から1次処理を行った食事が運搬され、1階の厨房で2次処理を行う。

1. 本体施設の概要について

1	名称	小山田特別養護老人ホーム
2	所在地	四日市市山田町5500-1
3	開設年	1974年
4	建物階数	地上：4階
5	併設サービス	同一敷地内に病院、老人保健施設、ケアハウスなど医療福祉施設が数多くある
6	敷地面積	24038.42㎡
7	建築面積・延床面積	建築面積7067㎡、延床面積：21192.92㎡
8	都市計画区域区分	市街化調整区域、建蔽率60%、容積率200%
9	建物の構造	RC造
10	平均要介護度	3.9
11	ホテルコスト	従来型個室：43500円/月(1450円/日) 多床室：9600円/月(320円/日)

2. 改修の全体像

現在、同一敷地内にある第2小山田特別養護老人ホームを全室個室ユニット型にするために大規模な拡張および改修を行っている。
 サテライトの母体となる小山田特別養護老人ホームは、第2小山田特別養護老人ホームの改修後に詳細を検討予定。

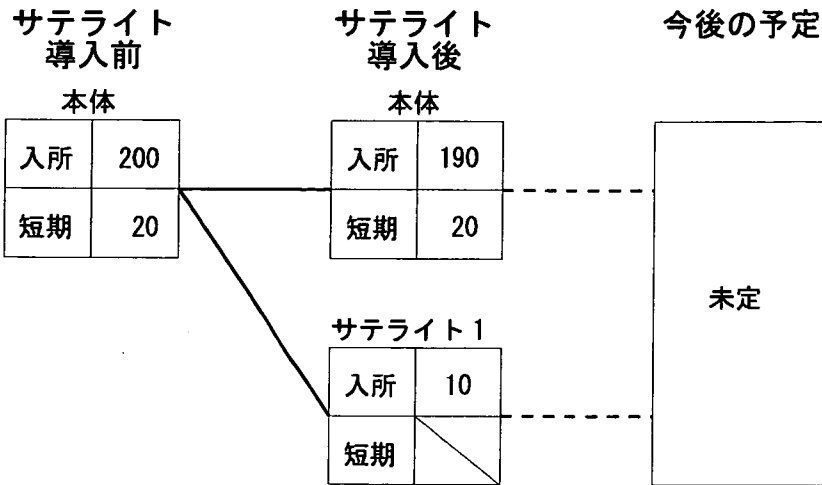
3. 改修の状況

年	内容
1974年	小山田特別養護老人ホーム100床(6人部屋)で開設
1977年	30床(4人部屋が主体)を増床し定員が130床になる。
1980年	定員を130床から140床に変更
1988年	60床(4人部屋が主体)を増床。定員が200名となる。
2001年	6人部屋を全て4人部屋に改修。
2005年	三重県単独のユニット補助金(200万円)を使い、2つのデイコーナーをキッチン付きの食事の場に改修。

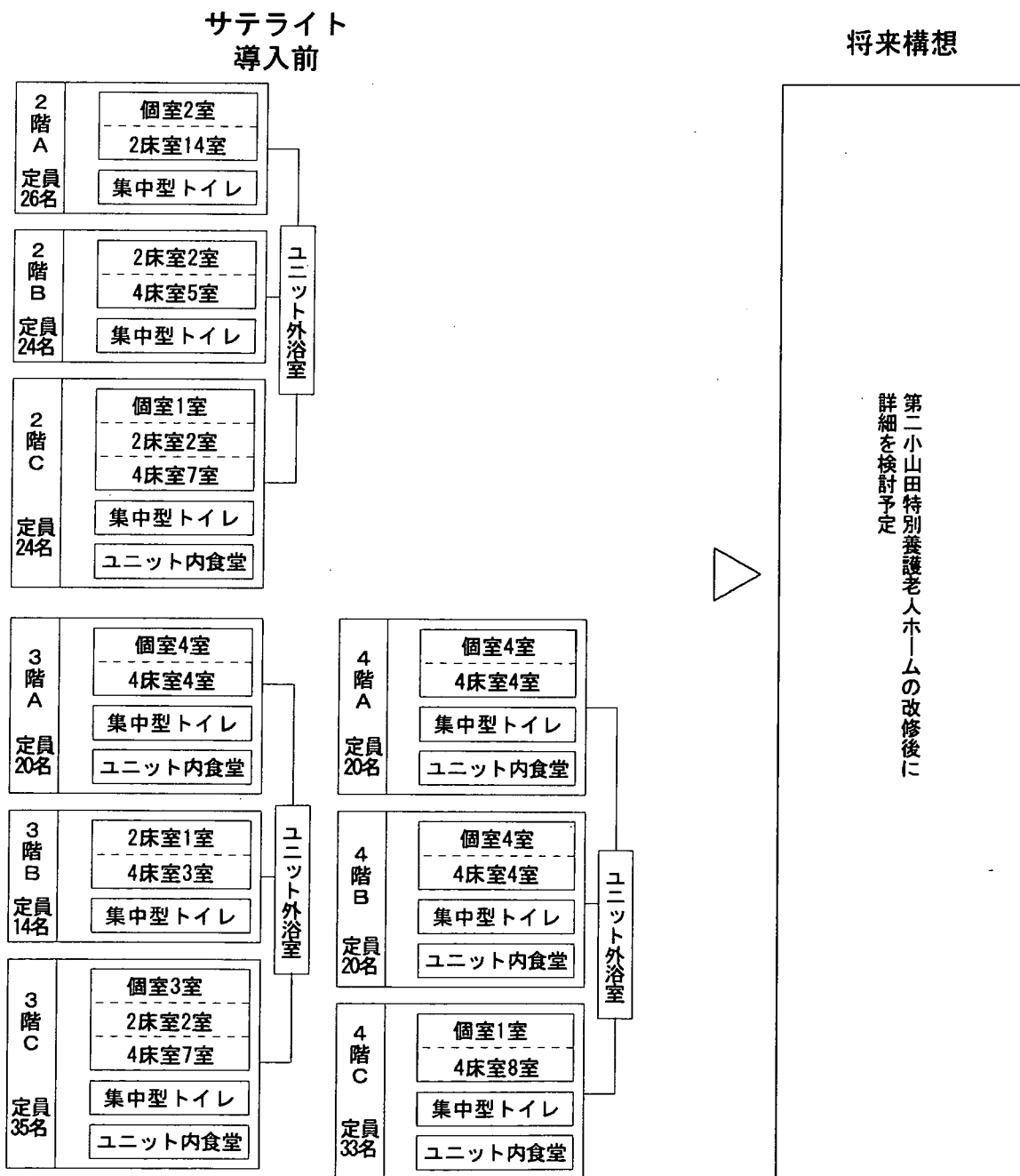
4. ソフト・ハードの概要

		改修前					改修後					
ソフト	定員	入所：200名 短期入所：20名					入所：190名 短期入所：20名					
	ユニット数	9ユニット					9ユニット					
	ユニット定員	2階(3ユニット)：26人、24人、33人 3階(3ユニット)：20人、14人、35人 4階(3ユニット)：20人、20人、33人					サテライトへ移行した人の居室は空きベッドになっており、ユニット構成はサテライト開設前と同じ。					
	職員配置 入居者：看護+介護職員						2.5:1					
ハード	居室	部屋数	個室1	個室2	2床室	4床室	その他	個室1	個室2	2床室	4床室	その他
			8	17	7	48		8	17	7	48	
	改修内容						改修の予定は未定である。 サテライトへ移動した居室は空き部屋、または、倉庫して利用されている。					
食堂	ユニット毎の有無						2階には3ユニットに1つの食堂があり、3階、4階には各ユニットに1つの食堂が設けられている。					

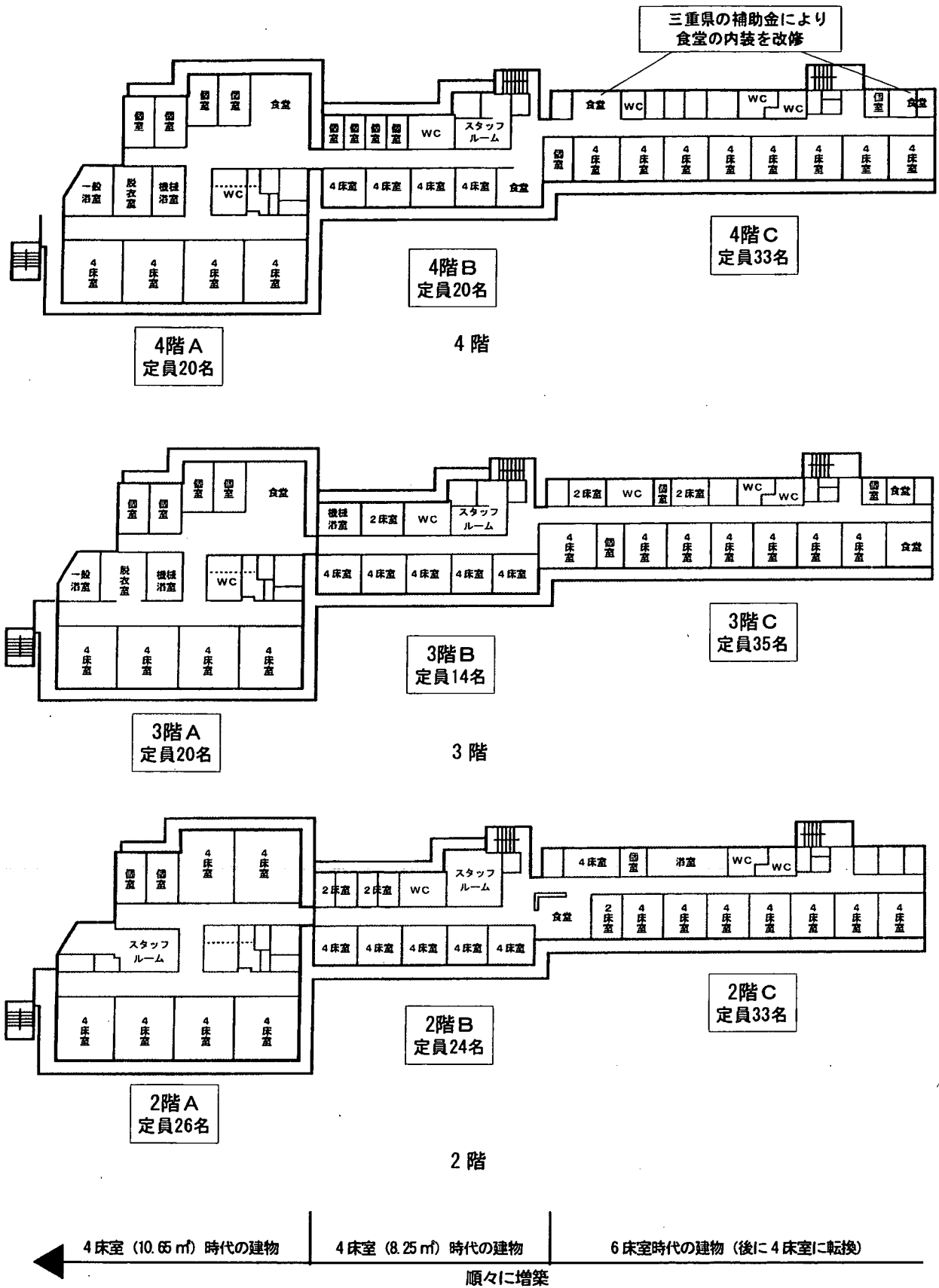
図表 1-59 本体施設の概要



図表 1-60 サテライト展開の概要



図表 1-61 本体改修の概要



図表 1-62 本体施設の平面図 1/600



写真 居室1

6床室時代に建設された居室を4床室に転換。奥の空きベッドはサテライトへ移動した人の部屋。



写真 2階食堂

10.65㎡の居室。居室内には備え付けの家具が設置されている。



写真 廊下

10.65㎡時代の棟から、6床室時代の棟につながる廊下。



写真 2階ユニットCの食堂

6床室時代の棟に作られた食堂。

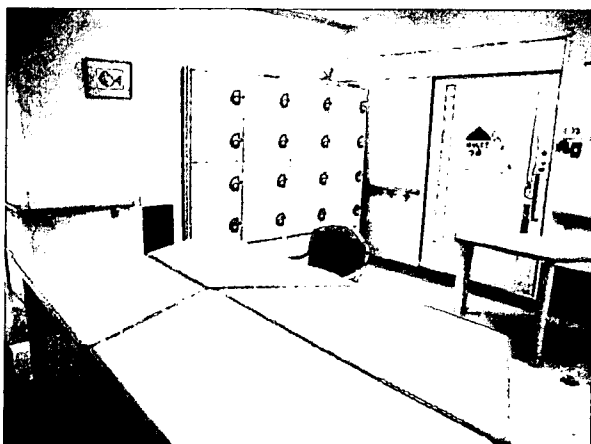


写真 3階ユニットAの食堂

居室前の廊下まで含めて広く食堂として使われている。写真内のロッカーは入居者の荷物を入れるロッカー（冷蔵機能あり）



写真 4階ユニットCの食堂

三重県の補助金により改修された部分。キッチンを取り付け内装材を木目調に張り替える。

調査事例7 社会福祉法人 松涛会	本体施設名	特別養護老人ホームはまゆう苑
	サテライト施設名	特別養護老人ホーム サテライト型 新型特養 フロイデ ハイム

法人の概要

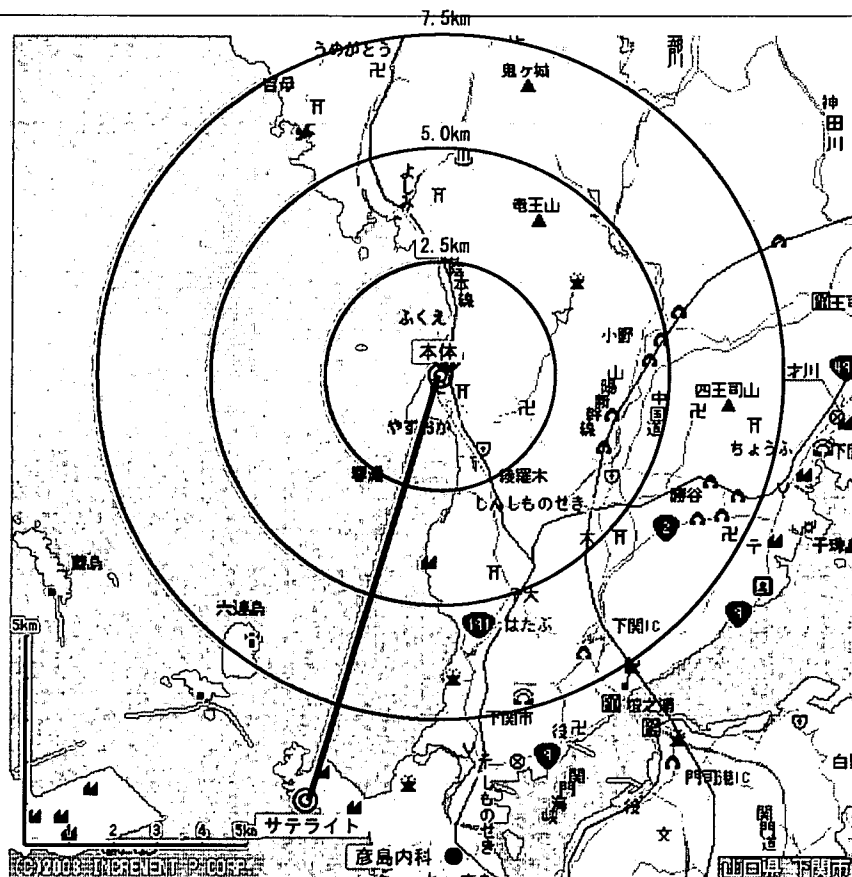
昭和35年、山口県下関市彦島地区において彦島内科としてスタートしたのが始まりである。昭和56年には、同市の安岡地区に安岡病院を開業し、昭和61年には隣接敷地内に特別養護老人ホームはまゆう苑を開設した。その後、医療面については、緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型の整備を行い、福祉面でも特別養護老人ホームの隣接敷地内に、老人保健施設、ケアハウス、グループホーム、デイサービス、生活支援ハウスなどの拡充を行っていた。

そして、平成17年には発祥地である彦島地区にケアハウス（フロイデ彦島：定員50名）、グループホーム（定員18名）、デイサービスセンター、訪問介護ステーションをオープンした。今回の調査対象施設であるサテライト（フロイデハイム）はケアハウスの駐車場として用意された敷地内に建設され、徒歩1分程度の距離にある。さらに、フロイデ彦島、フロイデハイムと発祥地である彦島内科（診療所）とは、6.6km（車で約10分）の距離にあり、彦島内科および彦島内科の近隣にある訪問看護ステーションから、医療、看護のバックアップを受けることができる。

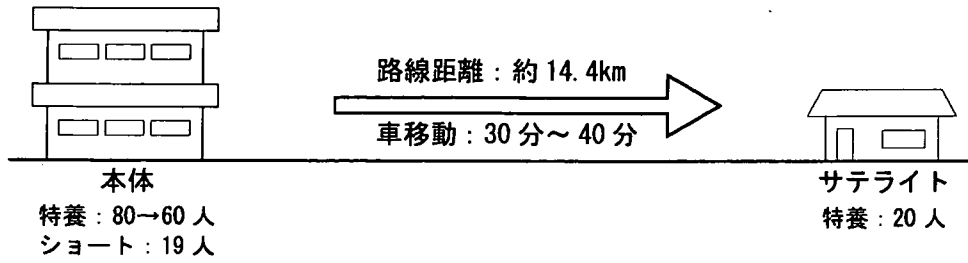
本体およびサテライトの立地と位置関係

本体は、平地にあり周辺は農業用地に指定されているために畑に囲まれている。その外には住宅地があり、幹線道路沿いには商業施設も点在している。

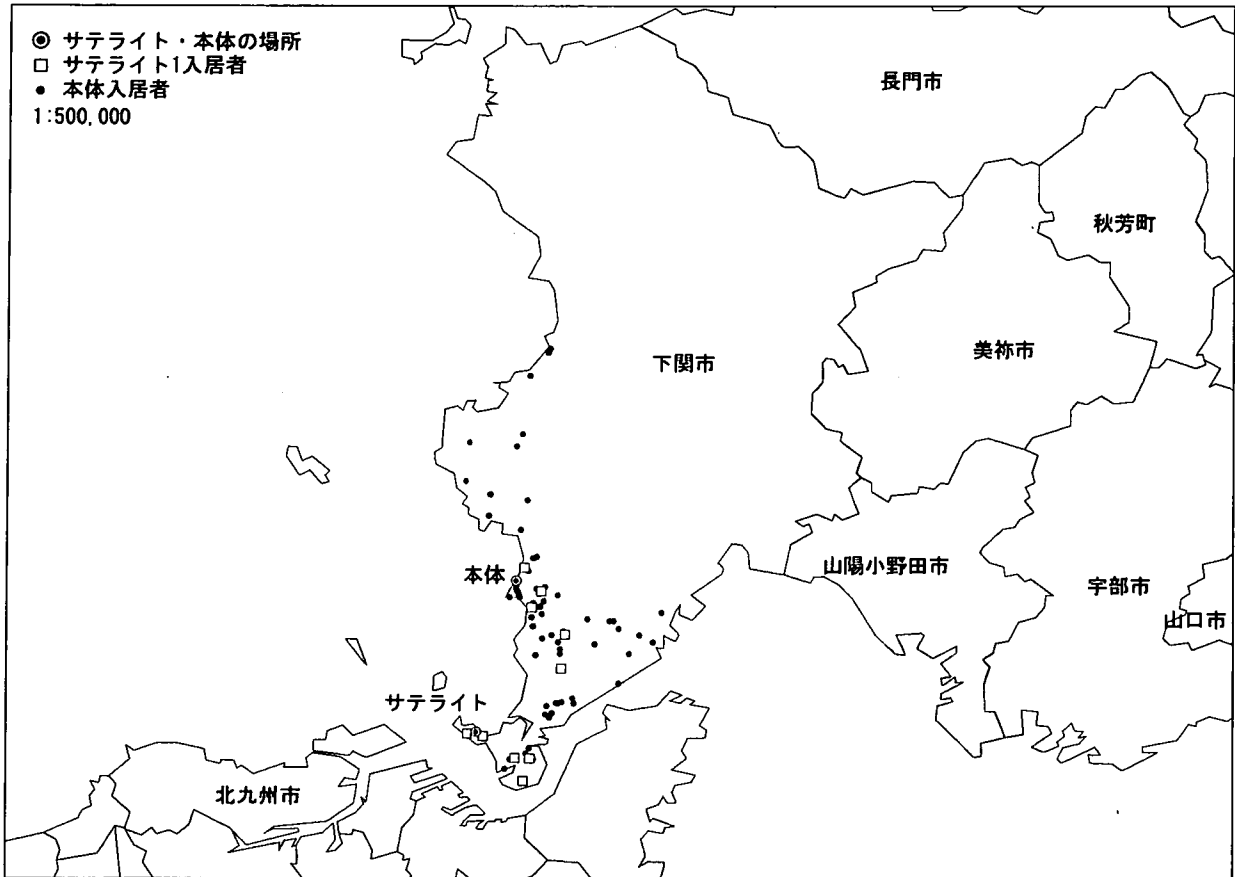
一方、サテライトは、関門海峡に面した海沿いの斜面地にあり、周辺は住宅地になっている。本体とサテライトの距離は直線距離で9.8kmであり、車で移動すると30分～40分となる。



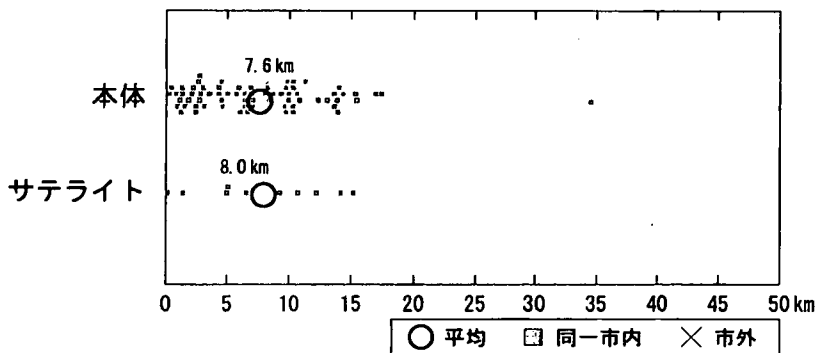
図表 1-63 本体およびサテライトの位置とその関係



図表 1-64 本体およびサテライトの距離



図表 1-65 入居者の前居住地の分布



図表 1-66 本体およびサテライトと前居住地の距離

	山口県	下関市
面積 (km ²)	6111.91	715.89
人口 (人)	1492606	290693
人口密度 (人/km ²)	244.2	406.1
高齢者人口 (人)	373346	73990
高齢化率 (%)	25	25.5
独居高齢者数 (人)	66304	14227